

閑話 休題

<カンワキュウダイ>

四回目の本題

花粉症

の根本にあるもの。

閑話休題：無駄話をやめて、話の本題に入ること。ヒマさえあれば無駄話ばかりしている編集室、無駄話がくしゃみに変わるもの時間の問題です。花粉症対策のグッズや食品は実に様々で効果にも個人差があるためここでは割愛することにして、今回は花粉症の原因にまつわるお話。

ハクション議連、耳にした事がありますか？ ターバンを巻いたヒゲのおじさんが壺から出てくるアニメの続編かと思ってしまうのですが、自らも花粉症に悩む自民党議員達が結成した「花粉症等アレルギー症対策議員連盟」の通称です。インパクトのある名前に負けじと活動は真剣そのもの。国をあげてアレルギーの対策に講じるべく予算の確保などに奮闘中。花粉症の人々にとっては心強い存在です。

花粉症人口は今や国民の15%にもなると言われています。ここ数十年での増加は著しく、発症した人は「花粉症デビュー」と表現するのだとか…。まだ未経験の人もいつデビューするかわからず戦々恐々、問題は日ごと深刻さを増しています。どうして花粉症人口はそんなに増えてしまったのでしょうか？原因は大きく分けて3つあるようです。

1. 単純に、花粉の飛散量が増えた

戦後の復興期、とにかく成長の早い杉を植えよと植林が推し進められたものの、時代が変わり安い輸入木材に押され、後継者不足で林業が衰退。荒廃した杉林の杉が30～40年を経て成木となった今、一斉に大量の

花粉を撒き散らしています。

2. 日本人のライフスタイルが変わり、アレルギーを起こしやすい体質になった

たんぱく質・動物性脂肪・添加物を含む食品中心の食生活。精神的ストレス。現代の生活が体質を変化させ、免疫機能にも影響が。

3. 大気汚染などの環境の変化

排気ガスなどの化学物質と花粉が吸着するとアレルギーを起こしやすい状態に。地球温暖化で気温が上昇し花粉の飛散量もより増加すると言われています。

いずれの項目からしても花粉症は「日本の経済成長が増加させた現代病」と言えるかもしれません。戦後植林に従事した人も、よもや自分の植えた杉が我が子や孫を苦しめることになるうとは思ってもみなかったのでは…。様々な要素が長時間かけてこんな状況にしてしまったのだから、一朝一夕で解決するのは難しい。計画の甘さが事態を引き起こしたことを教訓に、せめて子や孫がもっと酷い状況にならないために、今の自分の花粉症対策と同時に、国で、個人単位でも、将来を見据えた生活環境の改善をしていきたいものです。

杉にまつわるエトセトラ

いま、杉業界がアツい!

杉材の活用で街がスギだらけ!?

日本で杉を持て余しているならば、何かに活用できないか?と思ったら、具体的な活動で成果をあげている団体がありました。その名も「日本全国スギだらけ倶楽部」。杉の魅力をきちんと評価しクオリティの高いモノを作ることで、山で「はな」街や住まいを「杉だらけ」にしよう!という壮大なプロジェクト。活動は全国規模。秋田支部もあるようです。

花粉症でも親しめる「ゆるキャラ」

今の時期、花粉症の方にとっては見るだけで「反射的にちょっと鼻がムズムズしちゃうような、わか杉団体のキャラクター「スギッチ」。でも敬遠しないで!「スギッチ」は「若杉」だから花粉は飛ばしません。心なごなかわいい「ゆるキャラ」に、癒されてください。

トレンドにして杉の需要を推進

先日何気なく見ていたテレビで「モナツカ」なるものに目が釘付けになりました。杉の固伐材を利用して家具などを作る日本の「ブランド」で、「デザイン性、質感、風合いが素晴らしい。特に「ビッグ」に強く心惹かれました。ぜひ「モナツカ」で検索を。